

**道徳 読み物資料「ロレンゾの友だち」を考える****1 はじめに**

読み物資料「ロレンゾの友だち」は、友情について扱ったもので、アンドレ、サバイユ、ニコライという三人の友人が、ロレンゾが罪を犯したという情報に対して、どのように対応すべきかを友達として懸命に考えるという多くの教科書が取り扱っている小学校の資料である。インターネット等でその授業内容をみると、ロレンゾの友だち（アンドレ・サバイユ・ニコライ）が最終的に罪を犯したと決めつけロレンゾを信じることができなかったことを、道徳的な問題として考えている場合が見られる。このことについて、しっかり考えてみたい。

**【「ロレンゾの友だち」あらすじ】**

二十年ぶりにロレンゾが三人の友だち（アンドレ・サバイユ・ニコライ）に会いに来るという手紙が届く。しかし、刑事が言うには、彼は会社の金を持ち逃げして警察に追われていると。そういう状況で三人はもし、ロレンゾが会いに来たら、どうしようかと相談する。結論は決まらずに約束の場所に行くが、ロレンゾは現れなかった。その後、もう一度ロレンゾにあったらどうするか話し合う。

「お金を持たせて逃がしてやる。」というアンドレ。

「自首をすすめるが、本人が納得しなければそのまま逃がす。」というサバイユ

「自首をすすめるが、本人が納得しなければ警察に知らせる。」というニコライ

三人は、それぞれ眠れない夜を過ごす。

翌朝、ロレンゾの無実が判明し、喜びあう四人。しかし、前日に話し合ったことを、ロレンゾに三人とも口にしなかった。別れたのち、三人は「もしロレンゾがほんとうに罪を犯して帰ってきていたとしたら、自分は友人としてどうすべきだったのか？」とあらためて考え始めた。

**2 考え1**

「二十年も会っていなかった上に警察から罪を犯したといわれている友達が会いに来るという時、友だちがそんなことするはずないと信じることが出来なかった。」ということが、道徳的な問題となりうるだろうか？ もし、そうであれば最後に「あらためて本当に友達が罪を犯して会いにきたとき、どうするか考えだした。」ということと矛盾する。もし、友だちが罪を犯したと疑うことが道徳的な問題なら、道徳的な終着を迎えた資料の中で最後にまた、罪を犯したことを前提にした考えを持ち出すことは、おかしい。また、二十年もあっていなかった友人がもしかしたらやむえない事情があつて罪を犯したかもしれないと疑うことは、人としてあり得る

ことである。しかも、日本人にとって信頼の高いと感じる警察の言うことに疑問を持つことは難しい。

### 3 考え2

「そうすると何を考えるのか？」3人の友人が大切にしていたもの。それは、友情である。読み物資料では、三人の友人が各々、「ロレンゾを逃がすべき」、「自首を勧めるべき(しかし、本人が納得しなければ逃がすという考え)」、「自首をすすめるながらも最後は警察に知らせるべき」と三様に考え、それぞれが葛藤する姿が描かれている。しかし、その思いには、「互いの考えを受け入れたい思いも含まれているのでは」と考えられる。三人のもつ友情観はどれもロレンゾを信じたいという思いに基づく点で一致する価値がある。このため、三者の考えの良さに気づくことで、自分の気付いていなかった友情観にふれ、児童は友情についての考えを広げたり、深めたりすることができると思う。

さて、そうすると具体的に三人の友だちが大切にしていた友情とは、「どんな友情であろうか?」それは、「友だちを裏切らないこと」ではないだろうか?では、「裏切らないこととはどういうことか?」

ここで、いくつか羅列してみた。

- ・どんなことがあっても相手のことを助ける。
- ・友達として正しい道に導く。
- ・自分が友だちのためだと思っていることをきちんと行動する。
- ・信じる。

この場合の信じる内容は何であろうか?

○自分が相手のことを思ってやったことは、今は理解されなくてもいつか分かってくれると信じる。

○何でもかんでも信じるのではない。しかし、大切な部分はゆるぎない。友情の根本と言えるもの。互いに相手を大切にしたいという思いを持っているという事を信じる。

○友情の行動の原動力となるものを友だちが持っていることを信じる。その一つが、困ったとき、自分を助けてくれるのは友だちだという思い。そのほかには、・・・・・・(自分で考えてみよう!)

このことを信じられるからこそ、今はだめでも(嫌われようが)という思いで行動できる。

### 4 まとめ

今回、三人の友だちが大切にしたいと思っていたものを明らかにすることを念頭において考えた。そして、子どもたちに友情における信頼とは、「何でもかんでも信じるのではない。しかし、大切な部分はゆるぎないのであって、友情の根本と言えるものを信じる。」それを感じてほしいという思いである。そして、最後に、そんなことを考えられる仲間(友だち)を増やしてほしい。